

事業所の概要表

(令和 3年 6月29日現在)

事業所名	グループホーム紫竹庵					
法人名	特定非営利活動法人しいのみ					
所在地	松山市山越2丁目11-35					
電話番号	089-922-7403					
FAX番号	同上					
HPアドレス	https://www.npo-shiinomi.com/					
開設年月日	平成 14 年 11 月 28 日					
建物構造	<input checked="" type="checkbox"/> 木造 <input type="checkbox"/> 鉄骨 <input type="checkbox"/> 鉄筋 <input type="checkbox"/> 平屋 (2) 階建て (1・2) 階部分					
併設事業所の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ()					
ユニット数	1 ユニット		利用定員数 6 人			
利用者人数	6 名 (男性 2 人 女性 4 人)					
要介護度	要支援2	0 名	要介護1	1 名	要介護2	0 名
	要介護3	1 名	要介護4	2 名	要介護5	2 名
職員の勤続年数	1年未満	4 人	1~3年未満	4 人	3~5年未満	1 人
	5~10年未満	0 人	10年以上	1 人		
介護職の取得資格等	介護支援専門員 1 人		介護福祉士 4 人			
	その他 (ヘルパー2級)					
看護職員の配置	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (<input type="checkbox"/> 直接雇用 <input checked="" type="checkbox"/> 医療機関又は訪問看護ステーションとの契約)					
協力医療機関名	立命クリニック、千舟町クリニック					
看取りの体制 (開設時から)	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (看取り人数: 2 人)					

利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	14,000 円	
敷金の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 円	
保証金の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 円 償却の有無 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有	
食材料費	1日当たり	1,300 円 (朝食: 円 昼食: 円)
	おやつ:	円 (夕食: 円)
食事の提供方法	<input checked="" type="checkbox"/> 事業所で調理 <input type="checkbox"/> 他施設等で調理 <input type="checkbox"/> 外注(配食等) <input type="checkbox"/> その他 ()	
その他の費用	水道光熱費	15,000 円
		円
		円
		円

家族会の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (開催回数: 回) ※過去1年間	
広報紙等の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (発行回数: 回) ※過去1年間	
過去1年間の運営推進会議の状況	開催回数	6 回 ※過去1年間
	参加メンバー ※□にチェック	<input checked="" type="checkbox"/> 市町担当者 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 <input type="checkbox"/> 評価機関関係者
		<input checked="" type="checkbox"/> 民生委員 <input checked="" type="checkbox"/> 自治会・町内会関係者 <input checked="" type="checkbox"/> 近隣の住民
		<input type="checkbox"/> 利用者 <input type="checkbox"/> 法人外他事業所職員 <input type="checkbox"/> 家族等
	<input type="checkbox"/> その他 ()	

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

- (1) ケアマネジメント
- (2) 日々の支援
- (3) 生活環境づくり
- (4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ職員みんなで自己評価!
ステップ外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ評価の公表で取組み内容をPR!!!

—サービス向上への3ステップ—

新型コロナウイルス感染防止対策を十分おこない
訪問調査を実施しております

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市三番町6丁目5-19 扶桑ビル2階
訪問調査日	令和3年7月16日

【アンケート協力数】※評価機関記入

令和2年11月27日 集計

家族アンケート	(回答数)	5	(依頼数)	6
地域アンケート	(回答数)	4		

※アンケート結果は加重平均で値を出し記号化しています。(◎=1 ○=2 △=3 ×=4)

※事業所記入

事業所番号	3870102914
事業所名 (ユニット名)	グループホーム紫竹庵
記入者(管理者) 氏名	田中恵子
自己評価作成日	令和3年6月29日

<p>【事業所理念】※事業所記入 寄り添い、笑い合う、マイホーム</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】※事業所記入 ・意識づけるようになり、回数は増えてきた。今年に入り、新型コロナウイルスの影響により、外出は少なくなっている。 ・口腔ケアも意識するようになり、できるようになった。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 誕生日には職員がケーキを手作りしてみなで祝い、寄せ書きした色紙をプレゼントしている。 皆でテレビをみたり、懐メロの動画をみたりして室内でも楽しむ時間をつくっている。新聞折り排泄用品を含むもの(の)をすることが役割の利用者がおり、一枚一枚いねいに折ってくれている。わかることわからないことをアセスメントしており、個々に応じて、食器拭きなど家事を行うような場面をつくっている。 回覧板を回したり、運営推進会議録を地域メンバーに持って行くような時には利用者も一緒にやっている。</p>
---	---	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人一人の思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	どのように暮らしたいかなど、日常会話の中で聞いた情報を記録し、職員間で伝え合っている。	◎		○	入居時に、本人、家族から聞き取りを行い、センター方式の私の姿と気持ちシートに記入している。その後は、日々の介護記録の内容から察したり、重度の利用者については目の動きなどからも意向を察したりしている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	本人の言わんとしていることを、これまでの情報を踏まえ、本人の視点に立て汲み取るようにしている。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	今の現状を、面会に来られたときにお話して、ご家族からの意見も取り入れるようにしている。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	何気なく言った本人の言葉や様子などを記録に残している。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	本人の思いを大切にすることを心がけている、月例会議などでケア見直しなどを行っている。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入居時に、本人や家族から聞き取ったことなどを、アセスメントシートに記録し、残すようにしている。			○	入居時に聞いた情報は、アセスメントシートにまとめている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	声かけや見守り介護記録に残すようにしている。				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	介護記録に記入し、職員間で把握するように努めている。				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	○	介護記録に記入し、申し送り多し月会議などで話し合いを行っている。				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	介護記録に記入し、変化があれば、申し送りで報告し、職員間で話し合っている。				
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	△	本人の意向に沿うようにはしているが、職員のペースに合わせてしまうことがある。			○	日々の介護記録の内容や申し送り時の情報をもとに、月例会議(ケアカンファレンス含む)で検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	本人の状態を踏まえた上で、本人、家族の希望に応じて必要な支援を検討している。				
		c	愛媛県松山市三番町6丁目5-19 扶桑ビル2階	○	ケアプランに課題を記載している。				
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	月例会議で、本人の意向や思いを話し合い、介護計画を立てている。			○	利用者の意向、家族の要望を踏まえて職員で話し合い、職員のアイデアや意見を反映して計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人の意向に沿ったケアプランを作成するように努めたい。	○		○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	本人の様子を観察しながら、本人に合ったケアプランを立てるようにしている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	地域の支援内容が少ないため、今後検討する必要がある。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	月例会議で話し合っている。			○	日々の介護記録は、一冊に全員分ファイリングしており、個別の仕切り板に介護計画を貼って共有している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	月例会議で話し合いをして把握できるよう努めている。			△	日々の介護記録に記入しているようだが、情報は少なく、その内容を探す必要がある。
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的な内容を個別に記録している。	○	介護記録に具体的に記入するよう努めている。			△	日々の介護記録に記入しているようだが、情報は少なく、その内容を探す必要がある。
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	気づきなどでは、介護記録に記載しているが、工夫やアイデアはできていない。			△	口頭でのやり取りになることが多い。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	期間に応じて見直しを行っている。			◎	計画作成担当者が責任を持って期間を管理している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	月例会議などで話し合いを行っている。			◎	介護計画の内容にかかわらず、月例会議時に現状確認を行っており、利用者各々の担当職員が計画内容についてモニタリング表を作成している。
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	状態に変化があった場合は相談をし、見直しを行っている。			◎	退院後、嚥下状態の低下がみられ、介護計画を見直し支援している事例がある。
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	月例会議で問題の解決に努めている。			◎	毎月、月例会議を開催している。話し合いたい内容があれば職員は事前にメモ書きを管理者に渡しおくなどしている。緊急案件がある場合は、その日の勤務職員で話し合い、申し送りノートで周知している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	自由に発言をし、意見交換を行っている。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	事前に連絡をし、参加できるように調整している。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	議事録に記載し、目を通してもらえるようにしている。			△	職員は、議事録を確認してサインするしくみをつくっているが、サインが揃っていないような個所が複数見られる。
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	申し送りノートや口頭で伝えるようにしている。			△	申し送りノート、業務日誌、家族会ノートで情報共有している。確認した人はサインをするしくみをつくっているが、サインが揃っていないような個所が複数見られる。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝えるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	申し送りノートや口頭で伝えるようにしている。	○			
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	要望を聞かれるよう努めてはいるが、できないこともある。				
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	衣類など、利用者に関いて決めている。			評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	自己決定ができるように納得できる声掛けをしている。				
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	なるべく合わせるようにしているが、職員の都合を優先することがある。				
		e	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うろたえ等)を引き出す言葉かけや雰囲気づくりをしている。	○	できるだけ笑顔で常に会話を大切にしている。			○	誕生日には職員がケーキを手作りしてみなで祝い、寄せ書きした色紙をプレゼントしている。
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	努めて話しかけ、本人の意向を汲み取るようにしている。				
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	自尊心を傷つけないよう、声掛けしたり、態度に気をつけて行動している。	○	○	○	月例会時に研修もっており、身体拘束や虐待について勉強する中で人権や尊厳について学んでいる。職員の声かけや態度について気になるようなことがあれば、管理者がその都度、職員と話し合っている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であらさな介護や誘導の声かけをしえないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	○	周りに配慮し、思いやりのある言葉で対応している。			評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	見えないよう配慮しつつ、不安にならないよう声掛けしている。				
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	△	必ずノックを入るようになっているが、できないこともある。			評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	理解し、個人情報漏洩防止を常に心がけている。				
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者介護される一方の立場におかず、利用者にも助けを借りたり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	できることはしてもらい、してもらったときは感謝の言葉をかけるようにしている。				
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者同士の会話を大事にしている。				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)	○	トラブルにならないような環境作りを努めている。			評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者にも不安や支障を生じさせないようにしている。	○	職員が仲介して、声掛けを行い、周囲の人にも不安を与えないように配慮している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	入居時に家族から話を聞き、確認している。				/
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	入居時に家族から聞き取りをしているが、把握できない利用者もいる。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしていた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	入居時に家族から聞き取りをしているが、把握できない利用者もいる。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	面会時、気兼ねせずに話せるように、居室で過ごしてもらっている。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	×	新型コロナウイルスの感染防止のため、外出の頻度が減っている。	△	△	△	散歩や日光浴を支援しているが機会は少ない。回覧板を回したり、運営推進会議録を地域メンバーに持って行くような時には利用者も一緒にいる。春には総合公園にドライブして桜を見た。 重度の人については、室内から窓越しに空や景色をみる機会をつくることに止まっている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	地域の行事などは積極的に参加できるようにしている。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	重度の利用者は屋内で過ごすことが多い。窓から外を見てもらい、会話するように努めている。			×	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	×	新型コロナウイルス感染防止のためできていない。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	月例会議で話し合い、ケアの見直しをしている。				職員と一緒に洗濯物をたたんだり、野菜の下ごしらえをしたりする機会をつくっている。テレビ体操の時間に一緒に体操したりしている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	利用者によって、日々の生活ができるよう手助けを行っている。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	普段の生活から、役割、出番ができるように声かけを工夫するようにしている。	○		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	日々の会話や生活スタイルから把握できるよう努めている。				皆でテレビをみたり、懐メロの動画をみたりして楽しむ時間をつくっている。新聞折り(排泄用品を包む用のもの)をすることが役割の利用者がおり、一枚一枚でいねいに折ってくれている。わかることわからないことをアセスメントしており、個々に応じて、食器拭きなど家事を行うような場面をつくっている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	できることはしてもらい、必ずお礼を言うように努めている。	○	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	地域の中では支援できていない。今後、支援できるように努めたい。				
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つとらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	整容、服装については気をつけている。				新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。 衣服は、家族が用意している。訪問理美容は、新型コロナウイルス感染症対策期間のため訪問が難しいようで、髪が伸びたままの利用者もいるようだ。前髪のカットなどは職員が行うこともある。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	好みに合わせて、把握するように努めている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	利用者と一緒に決めている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	利用者と一緒に考えている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	さりげなく声掛けしたり、プライドを傷つけないようにしている。	◎	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	×	訪問散髪美容のため望む店には行っていない。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	本人らしさを保てるよう配慮している。			△	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食べることを楽しみを待ち、美味しく食べられるように工夫している。				<p>買い物、調理は職員が行っている。献立は、利用者にも「何が食べたい？」と聞いて、時々探り入れている。利用者が野菜の下ごしらえや食器洗い・拭きを行う場面をつくっている。</p> <p>職員が食材の買い物に行っている。調査訪問日の昼食は、なすやオクラ、とうもろこし入りの夏野菜カレーをつくっていた。さらに、食事を楽しむという観点から、利用者個々のなつかしい食べ物や食材など会話や食事に採り入れてはどうか。</p> <p>新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。</p> <p>新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。</p> <p>居間にいると、台所がよく見えて食事をつくるにおいても。ミキサー食の利用者には、献立を伝えてサポートしている。重度の利用者についても居間で皆と一緒に食事の時間を過ごし、雰囲気味わえるように支援している。</p> <p>食事に定期的な話し合うような機会は持っていないが、食事形態や調理方法などについては、口頭で話し合っており、食事には野菜を多く採り入れている。</p>
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	できていない場合もある。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の方の発揮、自信、達成感につなげている。	△	できることはしていただいている感謝の言葉を伝えている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	アレルギーなどは職員間で共有している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	季節に合ったものを取り入れることもある。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法として、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いれどりや器の工夫等)	△	状態に応じて対応しているが、重度の方が多いため、ミキサー食や刻み食が多い。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	その方に合ったものを使うようにしている。			評価困難	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	できている場合もある。食事は見守りをし、さりげなくサポートするようにしている。			評価困難	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	△	居室にて食事するため、食事内容を口頭で伝えている。	◎	◎		
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	把握できている、水分は摂取できるよう工夫している。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	飲み物の工夫をしたり、利用者の状態に合わせて、食事をしてもらっている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	×	職員間で話し合うことは、栄養士がいないため、アドバイスは受けられない。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	毎日ハイター消毒をしている。				
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	研修などに参加してもらい、理解している。				<p>口腔ケア時の目視にとどまっている。</p> <p>新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。</p>
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口腔ケア時に確認するようにしている。			△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	×	できていない。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	義歯洗浄剤を使い、消毒している。				
		e	利用者の力を引き出ししながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	△	できていないこともあるが、状態に応じて対応するようにしている。			評価困難	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	×	必要に応じ対応するように努めている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	状態に応じ対応している。				排泄用品は、家族が用意したり、事業所で用意したりして、利用者の排泄状況を報告しながら適切な用品が使用できるよう支援している。夜間の排尿量などに応じてサイズなど検討した事例がある。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	利用者の状態を理解している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	介護記録にて確認して、把握している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	トイレでできるように、トイレ誘導をしたり、その状態に合わせて支援している。	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	水分摂取や乳製品などで工夫し、自然排便を促す取り組みをしている。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	介護記録で確認し、利用者に合わせて、誘導をしている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	介護記録や月例会議などで話し合い、検討して、家族にも報告している。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	状態に合わせて対応している。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	水分を摂取してもらったり、ヨーグルトなどを食べてもらうようにしている。				
		20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	△	本人の意思を尊重するようしているが、職員の都合で決めることもある。	◎	
b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。			○	気持ちよく入浴できるよう声掛けをしている。				
c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。			○	できることは自分でしてもらっている。				
d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。			◎	入力を拒む人には、清拭をしたり、声かけを工夫している。				
e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。			◎	バイタルチェックを確認したりして、入浴の可否を見極めている。入浴後は水分補給をしてもらっている。				
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	介護記録で確認したり、申し送りで把握している。				入居間もない利用者について、入居前から薬剤を使用している場合は、睡眠や日中の様子をみながら医師と相談して支援している。日中は、家事への積極的参加を促したり、おしゃべりをして安心感を感じてもらったりして安眠につながるよう支援している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	眠れない利用者には、無理に寝かせようとはしないでお茶を提供したり、話をするが、介護記録や申し送りではあくしている。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	日中の活動内容を見直したり、主治医に相談している。			◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	自由に居室で休んでいただいている。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	×	本人から要望があれば、電話などしているがあまりない。				本人からの要望はない家族からの要望があればお話をしてもらっている。
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	×	本人から要望があれば支援しているがあまりない。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	△	家族からの要望があればお話をしてもらっている。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	×	手紙が届かないため現状はしていない。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらったとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	本人からの要望はない家族からの要望があればお話をしてもらっている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	x	利用者と買い物に行っていたが、新型コロナの影響によりできていない。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	一緒に買い物に行ったりするが、利用者が所持することはない。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	声掛けを行い、買い物先の協力をしてもらっている。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	お金の所持は本人と家族との相談で行っている。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	本人家族で話し合いで決定している。必要なものは一緒に買い物に行っている。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	お小遣いは法人で立て替えをし、毎月小遣い明細書を作成している金額が多いものは家族に相談している。				
24	多様なニーズに応える取り組み	a	本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに採り入れられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	家族と様々なニーズに対し、柔軟に支援を行っている。	◎		○	事業所内で共用のデイサービスを行っている。ガイドヘルパーを利用して受診に行く利用者がいる。
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮	a	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	民間はそのまま使用しており、玄関は日中は開け、入りやすいようにしている。	◎	○	◎	住宅街にある民家改修型の事業所で、門から玄関まで植栽があり石畳が続いている。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾り付けをしていたり、必要なものしか置いていない放風豊かな共用空間等、家庭的な雰囲気をそっくりな設えになっていないか等)。	○	民家をそのままにしており、家族的な雰囲気であり、毎日季節に応じた飾り付けを行っている。	◎	○	◎	民家改修型の事業所で、建物に家庭的な雰囲気がある。玄関先の黒竹を採ってきて、居間に七夕飾りを飾っていた。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	毎日掃除をし、換気をするようにしている。			◎	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	談話室に、季節を感じる壁紙を飾ったり、一緒に工作などをして楽しんでもらっている。			◎	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	自由に過ごしてもらっている。			◎	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	◎	浴室を使用しているときは、戸を閉めている。			◎	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
27	居心地良く過ごせる居室の配慮	a	本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	誕生日祝いの色紙や家族との写真を飾ったりしている。	◎		◎	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	見える位置に、転倒の危険性があるものは置かないようにしている。常に見守りをするようにしている。			◎	生活導線の中に、玄関の上り框、階段、段差などがあり、職員は声をかけたり、付き添ったりして見まもりながら支援している。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	職員間で話し合って、不安や混乱を招かないようにしている。			◎	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほろろ、織物道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	雑誌などで手に取りやすいように置いたりしている。			◎	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられられない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感、あきらめ、気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	心理的なことを理解し把握している。	○	◎	◎	調査訪問日、玄関は網戸にしていた。月例会時に研修を行っており、身体拘束について勉強する時に学んでいる。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	安全確保について説明している。			◎	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけるなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	さりげない見守りとして、利用者の行動を把握するよう努めている。			◎	
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	アセスメントに基づき対応を行っている。年1回見直しを行っている。			◎	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	日々の様子を記録して、申し送りにて報告している。			◎	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	状態に変化があった場合や、気になることは、主治医や訪問看護師に相談している。			◎	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	希望に応じて支援している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	入居時に主治医の説明を行い、納得を得てから支援を行っている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	大きな変化があった場合は、電話にて説明し、主治医との面談の機会を設け、話し合っている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	家族や関係者に報告している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	本人の状態と情報交換し、早期退院できるよう努めている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	日頃から、情報交換できるように、関係性を作っている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	日頃から利用者の状態を観察し、気づいた点などがあれば相談したり、意見を出し合ったりしている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	協力医療機関とは24時間相談対応できる体制にある。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	訪問診療時など、常に報告できるようにしている。また変化などがあれば、助言をもらうようにしている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	個別カルテに薬剤表を入れていて、いつでも確認できるよう変更があれば、日誌に記載している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	2名以上で確認し、声を出すなど工夫している。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	本人の状態を観察し、日誌や個人記録に記載している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	変化があれば記録をし、協力医療機関に相談、家族にも連絡するようになっている。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入居時1年に一度家族の意向を確認している。				医師から「看とりですね」と言われたら、話し合いの場を持ち、方針を共有して支援している。家族と一緒に看とりを支援したケースもある。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	職員、協力医療機関、家族で話し合いの場を設け、方針を共有できるようにしている。	○	○		
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	状態の変化に伴い、見極め、職員と話し合いながら支援していけるようにしている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	話し合いの場を設けたり、電話などで説明、同意を得ている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	協力医療機関と連携がいつでも取れるようにし、変化があればその都度相談検討している。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	不安があれば、傾聴したり、安心できるよう声掛けしたり、考慮するよう求めている。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	定期的に研修勉強会を行っている。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	マニュアルを作成し、対応ができるようにしている。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	情報を取り入れるよう努めている。				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	△	予防接種を行っているが、ニュース等で情報収集するようになっている。				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	消毒液を使用したり、手洗いを頻回にしたり、マスクを着用したりと、清潔保持に努めている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
II. 家族との支え合い										
37	本人とともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	話しやすい環境作りに努めている。				新型コロナウイルス感染症対策期間のため評価はできない。 毎月、職員が、写真入りで個別の手紙を作成して送付している。家族が、おむつや衣服を持参する際や受診の同行などで来訪する際に様子を報告している。 現在、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等について報告する機会は持っていない。 電話で報告したり、家族によっては、法人代表者とSNSでやり取りして、意見や希望を聞いている。	
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	△	雰囲気作りに努めていたが、現在は新型コロナウイルスの影響にて面会の制限をしている。					
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	×	現在は出来ない。		○			評価困難
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	毎月近況を写真付けて送ったり、電話にて報告するなど、日常の様子を伝えるようにしている。		○			◎
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	△	何かあれば連絡するようにしているが、新型コロナのリリースのため、以前に比べ、交流が取れていない。					
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	変化があれば報告するよう努めている。					
		g	事業所の運営上の事務や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	×	職員の異動などは報告していない。		△			×
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	現在は電話連絡が多く、家族の面会を控えられている。					
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	◎	職員間で話し合い、管理者が説明するようにしている。					
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	◎	連絡を取ったり、来所時には気軽に話せるよう、雰囲気作りに努めている。					○
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	管理者が説明し、同意を得ている。					
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退去希望があれば話し合いができる体制にはある。					
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	その都度文書を送ったり説明したりと、同意を得ている。					
III. 地域との支え合い										
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	×	運営推進会議に参加してもらったりしていたが、現在は文章開催できていない。		○		利用者と一緒にお覧板を回したり、運営推進会議録を地域のメンバーに持って行ったりしている。	
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	◎	日常的に挨拶するようにはしている。		△	○		
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	声をかけたりかけてもらったりはしている。					
		d	地域の人気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	施設内までには入ってこられていない。					
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄り寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	散歩や買い物の時など、気軽に声をかけていただく。					
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	敬老会開きますし、時には声掛けをしてくれる。					
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	×	新型コロナウイルスの影響により、あまりできていない散歩のみになっている。					
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	運営推進会議や行事の参加のみであまりできていない。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	家族と参加も含め、地域の方にも参加してもらっている。	×		△	職員のみで会議を行い、報告書を地域メンバーのお宅に持って行くなどしている。運営推進会議の意義が継続できるような書面会議に工夫してみたい。 活動の報告を行っている。サービス評価実施後は資料を添付して報告している。 意見や提案などはなく、サービス向上に活かしたり、報告したりするまでに至っていない。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	自己評価、外部評価などを報告している。			○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	意見や感想などを参考にしているサービスに活かされるようにしている。		◎	×	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	日程や時間など、参加しやすいように配慮している。			◎	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	いつでも見られるように、ファイルにし、玄関先に置き、公表している。				
IVより良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念がいつでも見られるよう、掲げており、共通認識が持てるようにしている。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	見やすいよう掲示している。		△	△	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	計画的に社内研修を行い、社外研修がいつでも受けられるようにしている。				法人代表者が職員の話の聞いている。また、休憩時間を確保することでストレス軽減につながっているようだ。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	社内研修で計画をしている。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	年2回人事調査などを行い検討している。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	×	新型コロナウイルスの影響により参加できていない。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	事業所を訪問したときは、職員に声掛けをしている。		○	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	定期的に勉強会を行ったり、話し合ったりしている。				月例会時に研修を行っており、虐待防止について勉強する際に学んでいる。さらに、マニュアルに沿って勉強するような機会もつくってほしい。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	日頃の業務内で話し合っている。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	見逃さないよう注意したり、話し合いの場を設けている。				
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	職員の表情、仕草などを観察し、話しやすい環境に努めている。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	社内、社外研修への参加をし、再認識、理解しやすいよう話し合ったりしている。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	身体拘束委員会にて点検を行ったり、社内研修を行ったりしている。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	話し合いを重ね、理解を図って、できる限りケアに取り組んでいる。				
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	△	理解していない職員もいるので、研修の機会を作る必要がある。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	×	相談等は受けていない、相談があった場合は、対応するよう努めたい。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	いつでも相談できるよう努めている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルを作成している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	年1回運営推進会議にて、救命講習をしているが、実践力を身につけるように努力している。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一步手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故報告書ヒヤリハットは職員間で周知し、検討している。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	月例会議にて話し合う場を作り、事故防止に努めている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	苦情対応マニュアルは作成しているが、職員が把握しているとは言えない。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	その場にいる職員だけではなく、代表者管理者に報告して対応している。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情があった場合は速やかに対応して、改善結果報告をしている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	運営推進会議には参加してもらっている、個別に聞いたりしている。			○	日々かかわる中で聞いている。さらに、意見や要望などを出しやすいような工夫を重ねてほしい。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	面会時に話す機会を作っている。	○		○	電話や来訪時に聞いている。さらに、意見や要望などを出しやすいような工夫を重ねてほしい。
		c	契約当初だけでなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	いつでも話せるような環境作りを努めている。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	月例会議に参加してもらったり、個別に話す機会を設けている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	月例会議や個別に話をしたりして努めている。			◎	職員は、業務についてなど検討したい内容があれば、月例会議前にメモ書きして管理者に提出しており、会議時に話し合い、業務の役割などについて決めたりしている。話し合いの際、必要時には管理者が、「それは利用者にとって良いことなのか？」と問いながらすすめている。
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	年1回自己評価に取り組んでいる。				運営推進会議時にサービス評価実施後は資料を添付して報告している。モニターをしてもらう取り組みは行っていない。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	月例会議にて報告している。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	月例会議にて報告して取り組んでいる。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	×	運営推進会議にて報告はしているが、モニターをしてもらっていない。	△	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	運営推進会議にて報告している。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	△	災害の対応マニュアルは作成しているが、周知までは至っていない。				2ヶ月に1回、大雨の浸水、地震、火災などを想定して事業所内で避難訓練を行っている。地域との協力支援体制の確保に向けた取り組みは行っていない。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	事業所内にて自主訓練はできている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常食用料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	△	消火設備は点検できているが、備蓄に関してはできていない。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	×	年2回、避難訓練はしているが、新型コロナウイルスの影響によりできていない。	△	◎	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	年2回運営推進会議にて避難訓練をして取り組むようにしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	取り組みはできていない。今後、地域に向けて情報発信できるよう努めたい。				特に取り組んでいない。さらに、相談支援できる事業所であることを地域に人たちに知ってもらえるよう取り組みに工夫してはどうか。事業所から地域に発信できることを話し合ってみてほしい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	×	行っていない、相談があれば対応している。		△	×	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェイベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	活用されていない要望があれば対応するようにしている。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	行っていない。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	×	敬老会神輿などは参加しているがあまり行われていない。			×	